

薬物乱用防止講話（10/20 実施）

講師として大江義彦様（薬剤師）と河田裕志様（保護司）をお招きし、1年生、3年生を対象に実施しました。大江様からは「薬物は皆さんの身近にあり、ひょっとしたことで薬物に手を出してしまう可能性があること。」「たった一度の薬物使用であっても乱用であり、薬物によってその人が壊れてしまうこと。」「ちょっとぐらいならという甘い考えで人生が狂ってしまうこと」をお話いただきました。河田様からは「真っすぐに歩いてほしい。一度の間違いなら、もとに戻れる。しかし、二度三度の間違いをすると元の道に戻れなくなる」ことを熱く生徒に対してお話いただきました。生徒はお二人の話に耳を傾け、自らの道を踏み外さないよう、薬物の危険性を改めて理解していました。

【生徒の感想】

- ・薬物の脳への悪影響や依存性に改めて怖さを感じました
- ・薬物乱用の女性の写真を見てたったの数年ので、顔立ちが崩れていくのが衝撃的だった。
- ・少しだけ…と軽い気持ちで薬物に手にすることなく、自分の身は自分で守れるようにしていきたい。
- ・ちょっとした興味から始まったものが、最後には自分を苦しめてしまう悲しい結末になることを改めて理解できました。
- ・情報が本当に正しいのかを自分でしっかりと判断していかないと自分の人生が幸せなものにならないと思いました。
- ・小学生や中学生の中にも薬物乱用をしたことがある人がいることは衝撃的で、身近な問題として感じました。
- ・薬物の一番の怖さ“やめられない”をもう一度学び何があっても薬物には手を出さない。誘われてもしっかりと断れる重要さを再確認しました。

